

保活の無情 無償化で さらに激化

「保育園落ちた」悲鳴は今年も

2月初旬頃、各地で保育園入園を巡る選考結果が通知された。地域によってはまだ待機児童問題が深刻で、「保活」は超激戦。さらに10月からの「幼保無償化」が激戦に拍車をかけることも予想される。

保活こんなに大変!

※カラダノートが運営する妊娠、育児中の女性が登録するメルマガを通してアンケート。1500人の女性が回答した

申し込み当日の市役所の担当者の聞き取りで、2時間以上待たされた。うちの子は寝てくれたが、周りでは泣いたり、暴れたりしていた子が怒られていた
(43歳、会社員、滋賀県、子ども0歳)

1歳までは子どものそばにいたい、1歳以降に欠員を待つと仕事復帰が厳しくなるため0歳入園を決めた。周りからも、そんなに小さいうちから預けるのはかわいそうだと言われ、精神的につらい
(29歳、会社員、兵庫県、子ども0歳)

申込用紙の応募理由欄をぎゅうぎゅうに埋めて必死感を出した
(26歳、システムエンジニア、大阪府、子ども0歳)

産休に入ってからすぐに区役所へ相談に行き、保育園見学を開始。臨月まで5園ほど見て、出産後も2園見学した
(29歳、会社員、神奈川県、子ども0歳)

育休短縮のつもりで職場にもそのように伝えていたが、入園できず。毎月、「今月もだめでした、すみません」と会社に謝りの電話をするのが憂鬱
(35歳、育休中、大阪府、子ども0歳)

自宅から徒歩30分圏内で行ける認可園を20カ所、通勤途中にある区内外の認証認可外園を8カ所見学。生後1、2カ月でとにかく子どもを連れ回して見学に行った
(36歳、会社員、東京都、子ども0歳)

認可外に入園した。来年入園の点数を増やすため副業も始めることにした
(34歳、事務職、東京都、子ども0歳)

出産後いざ保育園に預け仕事を探そうにも、育休を取っている方優先と言われる。仕事を決められないと預けるのは厳しいと言われた。しかし、仕事を見つけようにも、保育園が決まらなくては駄目とのことで、保活の大変さにどっぴり漬かっている
(34歳、主婦、茨城県、子ども0歳)

本来はもう少し育休を取りたいが、保活が心配で職場復帰を早めざるをえないという人も。今年も保活経験者から嘆きの声が続く

なっている。前出の女性も109点だったという。同点だった場合は、世帯所得が低い順に選考されるが、風間さんによると世帯年収が1千万円を超えると認可にはなかなか入園できないケースが多いという。19年度はその厳しさが増しているとのみ。「今年はきょうだいポイントがあっても落ちたという報告があるくらいなので、高所得世帯は相当厳しいでしょう。ピークだった3年前に戻っているような感じです。保育課はもう一度保育ニーズの見直しをし直すべきです」(風間さん)

保育が無償なら働こう

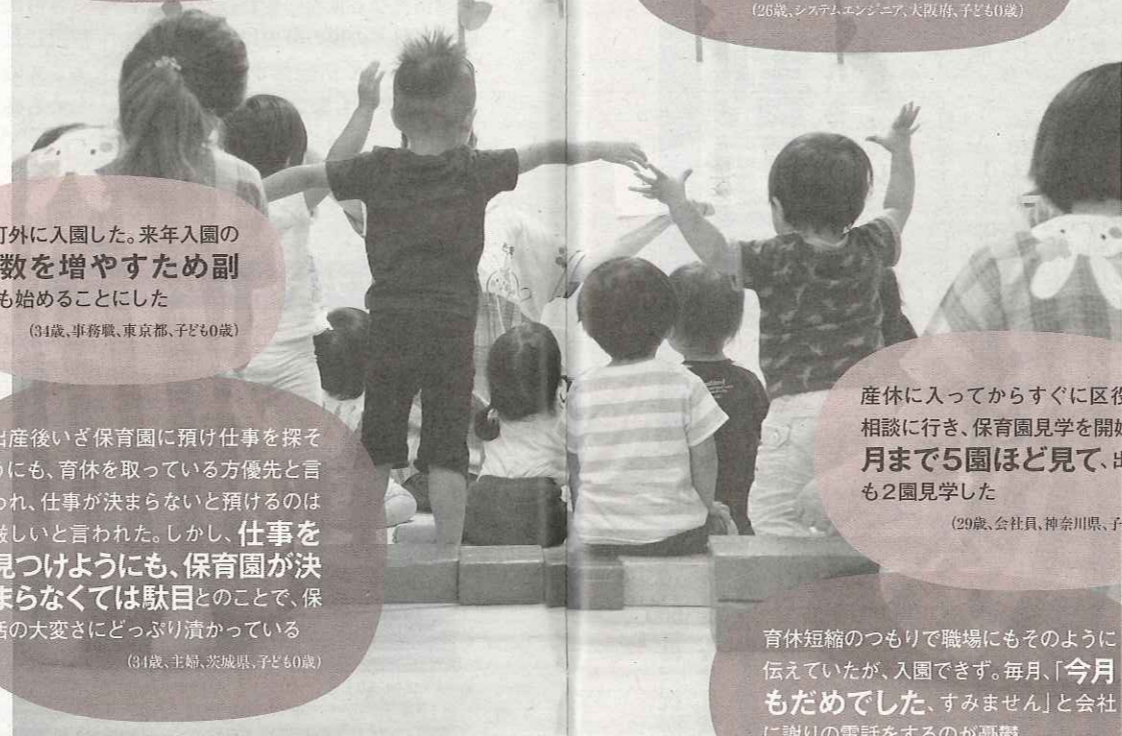
2月上旬に育児アプリ制作会社の「カラダノート」を通して全国の保活経験者にアンケートを実施すると、保活に苦しむ親たちの悲痛な声が多く寄せられた。現在「保活中」だという585人では79人が「今年の1次選考で落ちた」と回答した。世田谷区のような「揺り戻し」だけでなく、保育園への申込者数が増加しそうな要因はほかにある。今年10月から導入される「幼児教育・保育の無償化」だ。対象は3〜5歳児の全世帯と、0〜2歳児の住民税非課税世帯。認可や認定こども園、一部の幼稚園の利用料が無償化され、認可外保育施設の利用料も

条件付きで補助される予定だ。18年5月、朝日新聞が東京23区や待機児童が100人以上(17年4月時点)の自治体など87市区町村を対象に調査したところ、8割以上の自治体が、無償化の影響などで今後は「保育ニーズが増える」と回答した。その一方で、保育園整備や保育士確保などは追いついていない。受け皿の整備が追いつかなければ、待機児童数は増えるだろう。実際に「無償化」を先行させた自治体では、待機児童が急増している。代表的なのが、昨年待機児童数トップとなった兵庫県明石市だ。同市は16年度から、所得制限を設けずに第2子以降(0〜5歳児対象)の保育料を無償化してきた。すると、17年4月には待機児童が53%も

増えて544人に。18年度も入所希望者が17年度をさらに664人上回り、待機児童数は586人で全国最多となった。「保育園を考える親の会」代表の普光院亜紀さんはこう語る。「明石市だけでなく無償化を先行した自治体では、保育園への申込者数が増えています。保育園も幼稚園も無料なら、預かり時間の長い保育園を利用して、思い切って仕事をしたいという保護者は少なくない。子育て中はパートタイム勤務を希望する母親も多いが、保育料が高いと仕事をしても見合わない。でも保育料が無料ならば、働こうという意識になるので、申込者数が増えると考えられます」

来年度には全国に影響

1次選考で落ちた。明石市に住んで約12年。上に14歳と10歳の息子がいるが、次男までは申し込むとすんなりと入園できたという。だが、3人目では点数が「満点」に近くても落選。「無償化の影響は確実にある」と女性は感じている。無償化が開始された3年ほど前から、田んぼがどんどん整備されて住宅地が拡充された。医療費や保育料が安くなるという理由で、隣の神戸市から移ってきた人が多くいるという話も聞く。女性は「無償化自体は賛成だ」としたうえで、不満もあると話す。「無償化を目標に引越してきた人が保育園に入れて、明石



別の場所に連れていかれて保育されることがわかった。息子が熱を出した時のお迎えなどを考えると、現実的ではない。世田谷区で揺り戻し? 結果、女性が望む保育園はかなり限定されてしまった。そうした悩みも含めて区の窓口相談したが、担当者の返答は「根性論」だったという。「本気で預けたいなら、電車やバスでも行ける園も検討しないとダメだと言われました。0歳から環境の悪い園に通わせたくない。育休延長も考えています。付近の園は1歳児の枠はすべて、入園選考できようない加点がつく2人目以降の子どもで埋まったと聞きました。ウチは1人目なので、1歳枠でも激戦になりそう。2次選考で落ちたら、年度途中で入園できる認証や認可外を探すつもりです」

世田谷区の待機児童数は2017年度が861人で5年連続全国トップだったが、18年度は44%減の486人にまで減少した。保育園の整備を急ピッチで進めて18年度は保育総定員数を1275人増やしたうえ、認可の申込者数も435人減少したことで、大幅に数値が改善した。だが19年度は、入りやすくなったことでもまた待機児童が増えるという「揺り戻し」が起るかもしれない。保活の相談を多く受ける同区議の風間ゆたかさんは、現状をこう分析する。「減少トレンドにあったと思われた申込者数が19年度は6447人に増えた。これは待機児童数がピークだった16年度を若干上回っています。認可保育園に入園可能な人数は16年度よりも548人増えていますが、新設園の4、5歳児クラスはがらがらなので、増加枠が全て埋まるわけではない。認可に入れないかかった方たちを認可外などですべてカバーできるほど、保育枠は増えていません」

同区は「両親が正社員でフルタイム雇用」「勤続1年以上」「育児休業明け」という三つを満たせば「点数」が109点となり、これが入園可能な一つの基準と